

研究内容

1 「自然との対話」とは

自然との対話とは、子どもが自然の事物(もの)や事象(こと)に、五感を通して関わることを指す。自然の事物現象を五感を通して観ることで、子どもにとって必然性のある問題が観えてくる。つまり、みんなが納得できる事実を獲得するまで根気強く自然に関わることである。

2 「追究」とは

追究とは、問題解決学習を通して、自然に対する見方や考え方を科学的なものに変えていこうとする過程のことを指す。

つまり、自分なりの方法で問題を解決しようとし、みんなが納得できる事実を得ようとすることである。

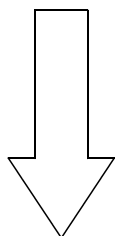
3 全国小学校理科研究大会鹿児島大会研究主題との関わり

【研究主題】

自然と対話し、追究し続ける複式理科学習

自然との対話

子どもたちが自然の事物(もの)や事象(こと)に、五感を通して関わること



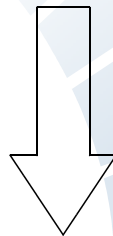
つまり、

自然の事物現象を五感を通して観ることで、子どもにとって必然性のある問題が観えてくる。

みんなが納得できる事実を獲得するまで根気強く関わること

追究

問題解決を通して、自然に対する見方や考え方を科学的なものに変えていこうとする過程のこと



つまり、

自分なりの方法で問題を解決しようとし、みんなが納得できる事実を得ようとする。

【全国小学校理科研究大会鹿児島大会研究主題】

こだわりをもって、探究し続ける子どもを育てる理科授業の創造

「自らの問題意識を大切にし、自分の目で確かめ納得できるまで調べ続けようとする子どもの姿」

4 研究内容

本校では、これまで児童の実態から、理科における複式学習指導は、「学年別指導」で行っている。実験・観察の伴う理科では、指導の効率性や安全性の面からも問題が生じる。また、単式学級で行う学習内容を同時間で2つの学年を指導することに物理的な限界が見られた。

そこで、効果的な指導を図るために、学習内容や児童に実態に応じて、一方の学年に指導の重点を置くことにした。そのためには、もう一方の学年の間接指導時における活動内容や方法などを工夫しながら、ガイド学習等の学び方が必要であると考えた。

